

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																								
成田国際航空専門学校	平成2年11月8日	山本 卓二	〒 302-0004 (住所) 茨城県取手市取手西野1842 (電話) 04-7188-7787																																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																								
学校法人 朝日学園	昭和55年3月19日	湯澤 大介	〒 270-0034 (住所) 千葉県松戸市新松戸4-2-1 (電話) 047-341-5888																																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																																							
工業	工業専門課程	航空整備学科 航空技術コース	平成28年文部科学大臣告示第19号	-																																							
学科の目的	航空機整備業務に必要な基礎的事項を教育し、航空従事者を育成する。																																										
認定年月日	平成25年2月17日																																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																				
2 年	昼間	1,737時間	850 時間	-	-	-	887 時間																																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																						
30人	6人	0人	10人	4人	18人																																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価の基準: 各定期試験にて70点以上を合格とする。 評価の方法: 出席、定期試験等による総合的評価。																																							
長期休み	■学年始: 4月 1日～4月 6日 ■夏 季: 8月 1日～8月31日 ■冬 季: 12月24日～1月 5日 ■学年末: 3月11日～3月31日		卒業・進級条件	卒業条件: 授業時数の90%の出席及び全科目60点以上の成績にて卒業とする。 進級条件: 授業時数の90%の出席及び全科目60点以上の成績にて進級とする。																																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個人面談・三者面談の実施、補習・補習、特別カリキュラムの実施		課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 ・スポーツ大会 ・学園祭 ■サークル活動: 無																																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和3年度卒業生) ・KYB(株) ・日立建機日本(株) ・コベルコ建機日本(株) ・その他 ■就職指導内容 ・就職担当を配置、担任と学生の3者で協議して学生のレベルと企業が求めるレベルを総合判断して企業に応募する体制としている。 ・企業が求める人物像を学生に享受し、企業で必要な資格の取得を指導。 ■卒業生数 6 人 ■就職希望者数 6 人 ■就職者数 6 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 3 年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th><th>種別</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>危険物 乙種4類</td><td>①</td><td>6人</td><td>2人</td></tr> <tr> <td>航空特殊無線</td><td>①</td><td>6人</td><td>6人</td></tr> <tr> <td>フォークリフト</td><td>①</td><td>6人</td><td>5人</td></tr> <tr> <td>ガス溶接</td><td>①</td><td>6人</td><td>6人</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	危険物 乙種4類	①	6人	2人	航空特殊無線	①	6人	6人	フォークリフト	①	6人	5人	ガス溶接	①	6人	6人																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																								
危険物 乙種4類	①	6人	2人																																								
航空特殊無線	①	6人	6人																																								
フォークリフト	①	6人	5人																																								
ガス溶接	①	6人	6人																																								
中途退学の現状	■中途退学者 0 名 令和3年4月1日時点において、在学者6名 (令和3年4月1日入学者を含む) 令和4年3月31日時点において、在学者6名 (令和4年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 0 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生の学校生活や授業態度を常に観察し、心境の変化を早期に発見できるように努めている。また、そのような兆候がある生徒には、個人面談、保護者を含めた3者面談をおこない、問題解決に努めている。		■中退率 0 %																																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 ・学校独自の奨学金制度なし。 ・授業料等減免制度: 有、 世帯年収が380万円以下、かつ日本学生支援機構奨学金を予約採用済、又は申込中である者に対し、15万円の授業料を減免。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 0																																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 0 受審年月: 0 評価結果を掲載したホームページURL 0																																										
当該学科のホームページURL	URL: http://www.niia.ac.jp/																																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

「実学重視」をすべての学科における教育の基本と位置付けしている。それを実現するため、時代の変化に的確に対応し、航空業界の発展に貢献する人材育成を目指し、関連する業界団体や企業の担当者との組織的な交流を通して、常に教育課程の改善を図ることを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、職業実践専門課程に求められる企業・業界団体等との密接かつ組織的な連携体制を確保して、授業科目の開設等の教育課程の編成に関する提案を行い、その提案を基に審議する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年9月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
久野 嘉一	公益財団法人 日本航空技術協会	令和3年5月10日～ 令和5年5月31日	①
岩本 信也	株式会社 JALエンジニアリング	令和4年7月1日～ 令和6年7月30日	③
佐々木 孝明	多摩川スカイプレジジョン株式会社	令和3年6月1日～ 令和5年6月30日	③
熊谷 仁志	株式会社 IHI 航空・宇宙・防衛事業領域	令和4年8月1日～ 令和6年8月30日	③
山本 卓二	成田国際航空専門学校		—
藤井 伸一	成田国際航空専門学校		—
久保 嘉孝	成田国際航空専門学校		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和3年8月4日 15:00～16:30(令和3年度)

第2回 令和4年1月21日 15:00～16:10(令和3年度)

第1回 令和4年9月8日 11:00～12:00(令和4年度)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

①:資格取得状況に関し、英語に関して今回記載されていない。英検・TOEICを受験していると思うが?

～今年度は英語検定に合格した学生がいなく、資格取得状況一覧表に記載出来なかった。英語の必要性は十分理解しており、我々の責任として底上げを図っていくよう引き続き取り組んで行く。

②:Tablet端末の導入に関し、整備Shop部門はCMMIに記載されている内容通り仕事をする事となっている。工程毎にTabletを置いてCMMIを読みながら仕事をする環境を整えている。3年前からTabletを導入しているが、時代と共に新しいタイプの物を入れないと、技術資料の種類が増えてきて効率的に資料を読み込むことが出来ない。Web環境を整えつつ、Tabletの台数を増やして仕事の効率化を図っている。学生の間からやれば、企業に入っても役立つので、是非達成して有効活用していただきたい。

～Tablet導入に際し、毎年学生にマニュアルを配布しているが、それを印刷する経費面と、資料を紙の媒体から変更することの双方を検討し導入を決定した。

③:『令和3年度の重点目標・進捗』入学者増に向けた取り組みで、基本的にオンラインでの開催となったが、以前近隣の学校との交流についての取り組みがあったと記憶しているが、今年度も出来なかったのか?

～コロナ禍以前は学校祭を通じて近隣地区の皆様と交流があったが、近年は出来ていない。近隣の学校とは出張授業で航空機概論・基本技術の基礎を行っていたが、今年度は殆ど出来ていない。進路説明会は何件か実施したが、オンライン中心であった。一方で、オンラインでのオープンキャンパスは好評で、広報主催で参加人数も伸びて来ている。SNSを活用した取り組みとしてInstagram、その他の媒体を通じて動画を配信して力を入れており結構アクセス数がある。又、コロナ禍で就職が厳しく、入学生も航空業界に向かう学生も少ない状況にある。入学者増に向けた別な取組みとして、R4年度から指定養成校全体で工業高校の先生対象に航空業界の業務を知っていたく研修を開催予定している。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

- ・日々進化する航空機ハンドリングの最新技術を授業に取り入れ、航空機ハンドリングに関連する知識とスキルの習得と興味関心の喚起を目的とする。
- ・航空業界の最新動向や求められる人材像等について企業等と連携して、日頃の学習内容の理解を深めると共に、社会人意識の涵養を目的とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

昨年度(令和3年度)は当初4回の企業連携教育を計画していたが、コロナ禍の影響で1回の実施となった。

* 令和3年12月17日(NIIA校内)、株式会社IHI航空宇宙事業本部 瑞穂工場より講師を招き、以下を実施。

(1)ジェットエンジンセミナー

- ・飛行機とエンジンの歴史 ・エンジン技術の進歩と新素材

(2)組立、修理実習

- ・Safety Wire, Safety Cable の掛け方の実習 ・Bladeのブレード作業、スクイザによるRiveting

～近年のエンジン製造、整備、新素材に関する最新のを知る事が出来、知見を深められた。

又、学校の授業では体験できない事柄を経験でき、整備士を目指す生徒たちにとって有意義な実習となった。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
発動機実習 (タービンエンジン)	株式会社IHI航空宇宙事業本部 瑞穂工場より講師を招き、以下を実施。 (1)ジェットエンジンセミナー (2)組立、修理実習	株式会社 IHI

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

・連携企業への研修の積極的参加と業界企業との連携にて、最新の航空業界動向や情報を把握し、授業や実習に反映させる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	小型航空機の整備に関する安全講習会	連携企業等:	国土交通省
期間:	R4年3月15日	対象:	教員2名
内容	小型機安全対策、小型機耐空類別変更、予備品証明制度制度変更、無人航空機の現状等について		
研修名:	航空安全シンポジウム	連携企業等:	日本航空技術協会
期間:	R4年2月18日	対象:	教員3名
内容	航空機IT技術革新、飛行記録装置について、安全情報発信の強化、空飛ぶ車と物流ドローンについて		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	昨年度は、コロナ禍の影響もあり参加出来なかった。	連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「航空整備学科教員研修」	連携企業等:	多摩川エアロシステムズ株式会社
期間:	令和4年8月8日	対象:	航空整備学科教員
内容	多摩川エアロシステムズ社にて、航空機の部品整備(電装部品)の整備内容の研修を実施。		
研修名:	各種シンポジウム	連携企業等:	航空局、日本航空技術協会
期間:	令和4年度	対象:	航空整備学科教員
内容	航空局、日本航空技術協会、主催のシンポジウムに参加し、航空業界の最新状況、動向、最新技術、課題等の情報を入手することにより今後の授業に活かす。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	コロナ禍の影響もあり、今年度は計画なし。	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

委員会は、成田国際航空専門学校が「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいて行った自己評価をもとに学校評価を行うとともに、その評価結果を成田国際航空専門学校の教育活動の向上および学校運営の改善に生かすことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	評価項目は5項目設定している。概要は以下に記載。 ・教育理念、目的、育成人物像、職業教育の特色、学校の将来構想が明記されているか。 ・教育理念の周知状況。 ・学科に対応する業界に向けて方向づけられているか。
(2)学校運営	評価項目は8項目設定している。概要は以下に記載。 ・目的等に沿った運営方針、運営方針に沿った事業計画策定されているか。 ・運営組織や意思決定機能の明確化。 ・人事、給与に関する規程化、教務・財務等の意思決定システムは整備されているか。 ・教育活動等に関する情報公開、業務の効率化が図られているか。
(3)教育活動	評価項目は14項目設定している。概要は以下に記載。 ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。 ・教育到達レベルと学習時間の明確化、学科等のカリキュラムの体系化がされているか。 ・職業教育の視点に立ったカリキュラム、教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 ・企業・業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等が行われているか。 ・実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか。 ・授業評価の実施と評価体制の有無、外部関係者からの評価を取り入れているか。 ・成績評価・進級・卒業判定の明確化、資格取得等に関する指導体制の明確化。 ・教員の確保に関する事項、職員の能力開発のための研修等に関する事項。
(4)学修成果	評価項目は5項目設定している。概要は以下に記載。 ・就職率の向上、資格取得率の向上に関する事項。 ・退学率の低減が図られているか。 ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。 ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校のエデュケーションの改善に活用されているか。
(5)学生支援	評価項目は10項目設定している。概要は以下に記載。 ・進路、就職、学生相談、経済的な支援体制に関する事項。 ・健康管理を担う組織体制、課外活動、生活環境への支援体制に関する事項。 ・保護者との連携、卒業生への支援体制、教育環境に関する事項。 ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。
(6)教育環境	評価項目は3項目設定している。概要は以下に記載。 ・施設、設備、実習施設の整備に関する事項。 ・インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか。 ・防災に対する体制は整備されているか。
(7)学生の受入れ募集	評価項目は3項目設定している。概要は以下に記載。 ・学生募集活動は、適正に行われているか。 ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。 ・学納金は妥当なものとなっているか。
(8)財務	評価項目は4項目設定している。概要は以下に記載。 ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。 ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 ・財務について会計監査が適正に行われているか。 ・財務情報公開の体制整備はできているか。
(9)法令等の遵守	評価項目は4項目設定している。概要は以下に記載。 ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。 ・自己評価結果を公開しているか。
(10)社会貢献・地域貢献	評価項目は4項目設定している。概要は以下に記載。 ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか。 ・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか。
(11)国際交流	設定なし。

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

- * 学校運営に関して、地域とのつながりが非常に重要である旨の意見が出され、引き続き連携強化の取り組みを確認した。
- * 教育活動の「教員確保」に関し、若手教員確保に向けた取り組み強化として、企業との連携強化、あらゆるリソースの展開を検討することとした。
- * 学生支援に関し、部活動が出来ない現状を踏まえ、主体性を持って行動する機会の確保を提案され、スポーツ大会/学園祭を通じて、その機会を確保することとした。
- * 社会貢献・地域貢献に関し、地域のイベントへの参加/ボランティアを通して貢献することを検討することとした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
久野 嘉一	公益財団法人 日本航空技術協会	令和3年5月1日～ 令和5年5月31日	業界団体役員
百田 寛	株式会社 JALエンジニアリング	令和3年6月1日～ 令和5年6月30日	企業職員
熊谷 仁志	株式会社 IHI航空・宇宙・防衛事業領域	令和4年8月1日～ 令和6年8月30日	企業職員
中村 圭介	株式会社 インテックス	令和3年11月17日～ 令和6年11月30日	企業職員
佐々木 孝明	多摩川スカイプレジジョン株式会社	令和3年6月1日～ 令和5年6月30日	企業職員
足立 知	株式会社 JALグランドサービス	令和3年6月1日～ 令和5年6月30日	企業職員
倉持 登	取手市小堀地区 区長	令和3年6月1日～ 令和5年6月30日	区長
平井 緑	成田つくば航空専門学校 保護者代表	令和3年6月1日～ 令和5年6月30日	PTA
渡邊 幹夫	成田つくば航空専門学校 保護者代表	令和4年6月1日～ 令和6年6月30日	PTA
菊地 智矢	成田つくば航空専門学校 卒業生代表	令和4年6月17日～ 令和6年6月30日	卒業生
古橋 亮祐	成田つくば航空専門学校 卒業生代表	令和2年11月1日～ 令和4年11月30日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.n-niia.ac.jp/>

公表時期: 令和4年10月11日を予定

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に沿ったホームページによる情報公開に加えて、定期的な広報誌の送付などを通して、本校の教育活動を積極的に伝える。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校案内—ご挨拶・学校概要
(2)各学科等の教育	学科・コース—学科・コースの紹介
(3)教職員	学校案内—教官リスト
(4)キャリア教育・実践的職業教育	職業実践専門課程について
(5)様々な教育活動・教育環境	学校案内—キャンパスライフ／写真で見るN-TAC／動画で見るN-TAC
(6)学生の生活支援	学校案内—キャンパスライフ
(7)学生納付金・修学支援	入学案内—学費について
(8)学校の財務	学校財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://www.n-niia.ac.jp/>

公表時期: 令和4年10月11日を予定

授業科目等の概要

(工業専門課程航空整備学科 航空技術コース)																
1学年は整備士コースと共通																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○		ホームルーム 就職指導	学生生活での一般的指導、就職活動に向けた対応につき学習する。	1後	13		○			○		○			
2	○		一般教養 (SPI)	社会人として一般教養の基礎能力を高めると共に、就職試験に取り入れられている適正検査を事前に学習する。	1後	11		○			○			○		
3	○		英会話	外国人教師による英会話能力を高め、航空機整備・関連業務に役立たせる。	1通	14		○			○			○		
4	○		危険物取扱	航空整備業務関連する危険物取扱を学び、危険物乙4類の資格取得を目指す。	1後	15		○			○		○			
5	○		航空基礎	航空機整備に関連する業務英語/基礎数学/基礎物理の各基本を習得する。	1通	14		○			○		○			
6	○		航空法規	航空機整備業務に必要な航空法やその関連規則を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1通	30		○			○		○			
7	○		航空力学	航空機の飛行に関する理論を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1通	42		○			○		○			
8	○		機体構造	航空機の機体構造に関する理論や構造を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1通	30		○			○		○			
9	○		システム	航空機システムに関する理論や構造を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1通	30		○			○		○			
10	○		航空計器	航空機の計器関係装備品に関する理論や計器の構造を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1通	30		○			○		○			
11	○		航空電子・電気基礎	航空機の電子・電気に関する理論を学び、飛行機に関する知識を習得する。	1通	44		○			○		○			

12	○		航空電子・ 電気装備	航空機装備品に関する理論や構造を学び、 飛行機に関する知識を習得する。	1 後	18		○			○		○				
13	○		航空機器・ 航空電気電 子実習	航空機装備品に関する構造や取付状況等を 実機で確認し、飛行機に関する知識を習得 する。	1 後	企業 応需				○		○	○				○
14	○		プロペラ	航空機用プロペラに関する理論や構造を学 び、ピストン発動機、タービン発動機との 関連知識を習得する。	1 通	30		○			○		○				
15	○		タービン発 動機	航空機用発動機に関する理論や構造を学 び、タービン発動機に関する知識を習得す る。	1 通	50		○			○		○				
16	○		タービン発 動機実習	航空機用発動機に関する構造や取付状況等 を実機で確認し、タービン発動機に関する 知識を習得する。	1 後	企業 応需		△			○		○	○			○
17	○		機体実習Ⅰ	航空機の機体構造／システム構造を実機に て確認し、飛行機に関する知識を習得す る。	1 後	49					○	○		○			
18	○		機体実習	航空機の機体構造／システム構造・発動 機・装備品を実機にて確認し、飛行機に関 する知識を習得する。	1 通	企業 応需					○			○	○		○
19	○		電気実習	セスナ機の電源システムの知識習得と、構 成部品・作動原理を習得する。	1 前	24					○	○		○			
20	○		整備に必要 な技術Ⅰ	セスナ152及びセスナ172による基本構造、 作動、地上取扱い、注意事項等の理解、整 備士としての知識技能を習得する。	1 後	40					○	○		○			
21	○		整備の基本 技術	航空機の基本技術を学び、航空機整備の基 本の知識を習得する。	1 通	149		△			○	○		○			
22	○		整備の基本 技術実習	基本技術のベンチ作業に於けるグライン ダーおよびその付属設備の整備・保全・適 正な作業管理の遂行を徹底して行う知識と 技術を習得する。	1 後	企業 応需		△			○			○	○		○
23	○		審査・試験	航空機整備の基本技術や専門知識の試験を 通じて、知識のレベルアップを計る。	1 通	44		○				○		○			

航空技術コース 2学年															
24	○			ホームルーム、就職指導	学生生活での一般的指導、就職に向けて、履歴書作成、面接対応シミュレーションを行う	2後	21		○			○		○	
25	○			一般教養(SPI)	社会人として一般教養の基礎能力を高めると共に、就職試験に取り入れられている適正検査を事前に学習する。	2後	16		○			○			○
26	○			情報処理	Excel/Wordやその他関連するコンピュータの基礎を習得する。	2通	56		○			○			○
27	○			英会話	外国人教師による英会話能力を高め、航空機整備・関連業務に役立たせる。	2通	23		○			○			○
28	○			造形工作	作図知識に基づいて、航空機図面を作成しステンレス材の材料取り、ケガキ、切断、ヤスリ、ドリル、仕上げ、研磨等のベンチ作業や、機械計測、溶接工程を盛り込み基本技術全般の習得を目指し、ものつくりの基礎を学ぶ	2通	30				○	○		○	
29	○			航空基礎	航空機整備に関連する業務英語の基本を習得する。	2通	20		○			○		○	
30	○			自由研究課題	毎年テーマを定めて、飛行機の分解・組立・調整作業を行い、機体構造を習得する。	2後	39				○	○		○	
31	○			試験(一般科目)	一般教養、航空機整備の基本技術や専門知識の試験を通じて、知識のレベルアップを計る。	2通	4		○			○		○	
32	○			機体実習Ⅱ	シャイアン機をベースに航空機の機体構造／システム構造を実機にて確認し、飛行機に関する知識を習得する。	2前	45				○	○		○	
33	○			装備実習-ATA24Ⅱ	シャイアン機の電源システムの知識と構成部品、作動原理を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を習得する。	2前	32				○	○		○	
34	○			装備実習-ATA22, 23, 34Ⅱ	シャイアン機の航空計器、航法システム、通信システム、A/P-F/Dの構成部品、作動原理を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を習得する。	2後	31				○	○		○	
35	○			装備実習-ATA31, 33Ⅱ	シャイアン機の飛行計器類、航法計器類、機内/機外照明の構成部品、作動原理を実機にて確認し、シャイアン機に関する知識を習得する。	2前	16				○	○		○	
36	○			プロペラⅡ	シャイアン機に装備されているプロペラに作用する力や制御装置及び付属品、指示系統、プロペラ整備に関する知識を習得する。	2後	7				○	○		○	
37	○			タービン発動機実習(CT58)	航空機用発動機に関する概論や構造を学び、タービン発動機に関する知識を習得する。	2前	53				○	○		○	
38	○			発動機実習	航空機用発動機に関する概論や構造を学び、タービン発動機に関する知識を習得する。	2通	企業応需		△			○	○		○

39	○		整備に必要な技術Ⅱ	シャイアン機の基本構造、作動、地上取扱い、注意事項等の理解、整備士としての知識技能を習得する。	2 前	32				○	○		○				
40	○		審査・試験 (専門科目)	航空機整備の基本技術や専門知識の試験を通じて、知識のレベルアップを計る。	2 通	14		○			○		○				
41	○		整備の基本技術	航空機の基本技術を学び、航空機整備の基本の知識を習得する。	2 通	113		△			○	○		○			
42	○		整備の基本技術実習	航空機に使用される多様な非金属材料の一つであるFRP複合材を用いた構造部材の製造工程における工程管理の重要性・必要性を認識すると共に、バリエーション豊富な作業実態を学習する。	2 後	企業 応需		△			○			○	○		○
合計				42 科目			1754 単位(単位時間)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：授業時数の90%の出席及び全科目70点以上の成績にて卒業とする。		1 学年の学期区分	前・後 期
履修方法：授業科目の履修認定は、出席状況と日常の学習成果及び試験結果に		1 学期の授業期間	20 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。